

農業委員会だより



6月10日「桃山の里ふれあいフェスタ 2018」に於いて、農業委員会活動のPRの一環で農地相談など行いました。(瓦版 (P6) に関連記事掲載)

● 目 次 ●

2~3P

農を語る

株式会社 井の楽
代表取締役 平林善典さん

4P

- ・下限面積(別段面積)変更のお知らせ
- ・京丹後農業振興地域整備計画の見直し作業に取り組んでいます
- ・農地の定期的な草刈りなど管理を行いましょ !!
- ・視察研修レポート 農業委員 高杉 和男

5P

- ・全農地利用状況調査を実施中 !!

6P

=京丹後アグリ瓦版=

- ・農業委員会活動をPRしました!!

7P

- ・京丹後紀行 須川のトンネル(まったけ尾トンネル) ~ 弥栄町 - 須川 ~
- ・小学生お魚料理教室が開催されました。

8P

- ・郷土料理／旅館 海遊(網野町三津)
代表取締役 西村大輔さん
- ・農業者年金に加入しましょ



草刈作業に精を出す構成員

分野でそれぞれが頑張っているからできたと思います。

《地域農地の受け皿として》

平成28年度は「京都府農地中間管理機構」による農地の集積作業を集落全体で行い、国営開発農地と区内の水田9割の集積を行ない、農作業等の効率化に地域を上げ取り組むことが出来ました。

法人は、田植え、稲刈り、草刈りなど人手の必要な農作業は共同作業とし、株主の65%の人が参加しています。植え付け後の水田の管理は4名の農家に委託しています。

す。機械利用組合を発展的に解散し、法人の本格的経営は平成29年度からとなりました。

5月の定例株主総会、春の「さなぼり」秋の「いのこ」などは株主などの重要な交流の場となっています。今年から若者が「丹後農業実践型学舎」に通っています。数年後「井の楽」にも参加してくれることに期待しています。

また、毎月定例化を目標として取締役会議で意思疎通を図っています。

井辺区とも連絡調整をし、一体となって農地・農環境を守る視点から水稻作付困難な保全管理田の「形状変更」を行ない、水田への回復を図りました。今年も通称「苗代田」一帯の形状変更を伴う水田の集積を目指しています。

今日、農業を取り巻く環境はとも厳しいです。「米の生産調整」の廃止と「戸別所得補償1反7500円」の廃止。それらは生産者米価の下落を招きそうです。

株式会社「井の楽」のネーミング募集で井は井辺。楽は、農業が少しでも楽に、そして楽しくなればとの思いがあり決定しました。地域の農家の集まりが「地域の農

農を語る

株式会社 井の楽

代表取締役 平林善典さん

（弥栄町井辺）

井辺地区は、京丹後市弥栄町の竹野川西岸に位置し、金剛童子山を眺める、水田20ha、国営開発農地20haをかかえる38戸の集落です。



平林善典さん(右)
平林明生さん(左)

平成26年、国営開発農地への青年就農問題を機に「この広大な農地を誰が作るんだ」と今後の農業のあり方へ議論が発展。どこの地域でもやられている農業と村を守る話が井辺でも出され、「農業機械・設備などの共同利用をやるうじゃないか」と話が進みました。そのころ退職した同年代がいたことから話し合いもやすかったといっています。

《機械利用組合から法人設立へ》

平成26年3月に「人・農地プラン」の策定に向けた全戸対象の農業アンケートを実施。回答の特徴は「①耕作放棄地の拡大への懸念が50%」「②若者の農業者がいなくなり高齢化への不安が73%」「③法人経営（農業生産法人・機械利用組合）への期待73%」「④農業の効率化を求める75%」「⑤農

地の集積56%」「⑥将来、子供に農業を継がせたい0.3%」などであり、その当時の農家の思いが集まったものでした。

「コンバインの維持がもうどうにもならない」「共同化できないか」などのアンケート結果や農家の声に押され、機械施設を共同利用する「機械利用組合」の設立ができました。出資者は17名。農地の保有、耕作状況で出資額は様々です。

機械利用組合で機械設備を整えるには負担が大きく、補助金の対象となるよう、府や市の農業振興課などへしっかりと要望活動をしつづけ、平成26年8月に、コンバイン・乾燥機・穀摺り機・色彩選別機・農作業場など稲作作業に必要な機械設備を完備することができました。その秋から5haの刈取り受託も行なうことができました。

補助金の条件として「①法人化」「②他地区への耕作」「③複式簿記」などがあり、試行錯誤しながら意思決定が迅速にでき、経理・財産管理の透明化はかれ、税金対策等もできる経営体「株式会社井の楽」を平成28年4月設立しました。このように出来たのも、オペレータ・機械整備・事務など得意



昔ながらの田植えの完了を祝う「さなぼり」で交流を深めます

業力」なのかもしれません。

当面、井の楽は集落の水田の受け皿として、農地保全、後継者育成等を目指しています。

【取材を終えて】

募集で決められたネーミング「井の楽」。取材当日は、さなぼりが行われ老若男女参加者みんながワイワイで楽しまれていました。この姿を遠くから望遠レンズで覗いたら井辺の将来が見えてきそうである。頑張ってください。応援してます。

取材：谷口 光委員

全国農業新聞を購読してみませんか？



全国農業新聞は公的機関である農業委員会系統組織が発行する週刊の農業総合専門紙です。「週刊」ということから日々の報道には限界がありますが、むしろ週刊の時間を活かし、大切な情報をわかりやすくまとめています。

また、多くの読者の皆様に満足して頂けるよう、家族全員が楽しめる記事も充実しています。さらに、全国47都道府県にある支局の充実により、地域の元気で特徴ある明るい話題や地域独自のイベント情報などの提供に努めています。購読の申込みは京丹後市農業委員会へお気軽に連絡ください。

週刊 金曜日発行 月700円、年8,400円(消費税込み)

全農地利用状況調査を実施中!!

農業委員会では農地法第30条に基づき、①農地利用の確認、②遊休農地の実態把握と発生防止・解消、③違反転用の発生防止・早期発見を目的に、農地利用最適化推進委員(35名)が担当区域ごとに市内の全農地の利用状況調査を実施しています。農地利用最適化推進委員が確認のため農地に立ち入ることがありますが、皆さま方のご理解をお願いします。

また、現地を確認後、遊休農地と判断した農地について、農地法第32条に基づき、今後の農地の利用について農地利用最適化推進委員が所有者(利用権設定者)に意向を伺うことがありますので協力をお願いします。(平成29年度以前に調査票の送付を行い、回答を頂いた農地については対象外です。)

調査票でお聞きする内容は、下記のとおりです。

【記】

1. 農地中間管理事業^(注1)の利用を希望します。
2. 耕作する人に売却する(または、貸し付ける)こととし、自分で相手先を探します。
3. 自ら耕作します。
4. 耕作・管理をしています。

事業説明

(注1) 農地中間管理事業とは

農地中間管理機構が農業経営のリタイヤ、規模縮小など農地の受け手を探している農家から農地を借り受け、農業経営の効率化や規模拡大を考えている受け手(担い手農家など)に貸し付ける制度です。

※上記、事業は受け手が見つかるまでの間は、農地所有者が管理を行うなど条件があります。詳しい内容についてはお問い合わせください。

問/農業委員会事務局 Tel.69-0040 ・農地中間管理事業については 農業振興課 Tel.69-0410



下限面積(別段面積)変更のお知らせ

農業委員会では農地法第3条申請許可要件に必要な下限面積の変更を行ないました。

従来は峰山町・大宮町・網野町・丹後町・弥栄町は30a、久美浜町においては旧久美浜町・旧神野村・旧湊村が30a、旧久美谷村・旧川上村・旧上佐濃村・旧下佐濃村・旧田村が40a、旧海部村を50aで設定していましたが、平成30年7月1日より、市内全域一律に30aとすることを決定したのでお知らせします。

【問】農業委員会事務局 69-0040

京丹後農業振興地域整備計画の見直し作業に取り組んでいます

京丹後市では、「京丹後農業振興地域整備計画」について、京都府農業振興地域整備基本方針の変更及び京丹後農業振興地域整備計画に関する基礎調査の結果等を踏まえ、総合的な見直しに着手しています。

これは、農地の確保及び保全並びに農業振興に関する施策について定めるとともに、農業上の利用を確保するための誘導措置や規制が定められる「農用地区域」の指定範囲を見直すものです。

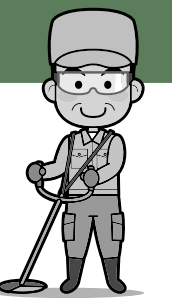
今後、該当する集落において、指定範囲(編入・除外)等について検討・協議の場をもつていただくこととしておりますので、皆さまのご理解・ご協力をお願いいたします。

【問：農業振興課 ☎69-0410】

農地の定期的な草刈りなど管理を行いましょう!!

山間谷地田の耕作放棄地が深刻な問題となっていますが、近年では平野部でも放棄地が増えてきています。中でも住宅横で雑草が繁茂し、管理がされていない農地では水捌けが悪く、蚊などの害虫が発生しやすい環境となっています。また動物の隠れ家にもなり、隣接する住宅や耕作されている農地に迷惑を掛けている事もあります。

このような環境を整えるため、放棄地となっている農地の所有者は定期的な草刈りや排水口の管理など心掛けてください。



視察研修レポート

農業委員 高杉和男

7月12日、農業委員・農地利用最適化推進委員(以下「推進委員」)の合同先進地視察が開催されました。目的は、この4月より京丹後市農業委員と推進委員が毎月定例会議を開き、各町エリアごとに集落営農組織の推進振興と新規就農者への促進支援などの取り組み活動を行っています。そこで一層の活動強化を図るため、他府県の先進地の取り組みを学び活動に生かしたいと思い参加しました。

視察先は、滋賀県東近江市糠塚(ぬかづか)町の農事組合法人「万葉の郷ぬかづか」です。

地域ぐるみで地産地消から第6次産業化され一歩進んだ集落営農の実践について、福島副理事長より説明を受けました。

この地域は、全国でも早く法人化に取り組まれ昭和63年より糠塚町の農業を考える会を組織し、各関係機関で検討を重ね、平成5年に「ぬかづか町

生産組合」を設立し、平成12年には「万葉の郷ぬかづか」を設立されています。この組織は、役員理事8名、監事2名、糠塚町の総農家23戸内専業農家6戸(酪農5戸、ラン農家1戸)で運営されており、圃場整備を契機に集落一農場方式により経営耕地



30ha、うち水稻20ha、飼料作物9haと1haのランを栽培されています。平成10年からは、安心安全無農薬として紙マルチを使用したり、無化学肥料栽培や合鴨無農薬農法に取り組むなど特徴ある農法を実践されています。

そのほかにも、酪農農家と連携した環境型農業による有機栽培に力を入れており、生産物にもこだわりと安心安全を売りにした販売が行われています。

現在の問題点としては、組織設立当事者の世代交代と後継者の確保・育成であるようです。

この組織は、耕作面積は大規模と云えないが地域内の農家のまとまりで国・県の補助事業を上手に活用していると感じました。京丹後市の中にも、集落営農組織・法人組織がありますが糠塚町の組織のようにスムーズにはいっていないと思います。平成30年度より国の農業施策が変わろうとしている中、今一度市内の地域農業の在り方を再確認する必要がある、当然、新規就農者や後継者への支援活動は行っていかなければならないと思いました。

今回の視察で農業委員、推進委員としての役割の大切さを大きく感じました。

◎集落一農場・法人化への取り組み経緯

- ・平成5年 「ぬかづか町生産組合」設立(機械の共同利用)
- ・平成9年 担い手育成基盤整備事業(圃場整備工事着手 34ha)
- ・平成11年 地域農業経営確立支援事業(育苗乾燥調整施設・農産物加工施設・農産物直売施設・農業機械・農村公園の整備)
- ・平成11年 みんなでがんばる集落営農促進事業(コンバイン・ハロー・育苗ハウス・米粉パン製造機械)
- ・平成13年 集落農家全員エコファーマー認定(近畿第1号)
- ・平成17年 「万葉の郷ぬかづか」設立



鮎の溪流釣りで有名な野間川の支流須川に、昭和の十年頃に素掘りて岩山を削り貫いたトンネルがあると云う。地元ではまったく尾トンネルと呼ばれている。

今、私の手元に昭和二十五年頃の野間村集落の略地図がある。それによるとトンネルの先には、住山七戸（住山六、尾崎一）、奥山七戸（出合二、黒川二、茶園二、平家一）の計十四戸が散在していた。これらの地域の人々は、役場や小学校のある野中集落に行くときに須川のトンネルを利用して

京丹後紀行

須川のトンネル（まったく尾トンネル）

（弥栄町―須川）

たのだが、小学校までの通学距離は、住山約三・七km、出合で約五・五km、最長の平家は七・二kmと、小さな子どもが通うには遠かったため、親は、朝にはトンネルの入り口まで送り、夕べにはトンネルで帰りを待ち、一緒に帰るのが常だったという。

しかし、トンネルが完成するまでは、岩山が川縁まで出ていたので、水嵩が少ない時は、川中の八個の石を飛石のように飛んで渡り、水嵩が多い時は、遠い山道を時間をかけて迂回しなければならなかったのだから、トンネルは、地域の人々にとってなくてはならないものであった。

住民悲願のトンネル工事は、昭和十三年十月に始まり、翌十四年六月に完成（延長四三・五m、幅三・五m、高さ約三m）している。おそらくは冬期間を利用しての工事と思われるが、当時は削岩機もなく火薬も入手困難な中、貴重な少量の火薬で爆砕し、あとは強健な体力でツルハシ、石ノミ、ゲンノウをふるって堅い岩盤を破碎し、トロッコで外に出すという作業が連日続けられたに違いない。そして、難工事の末、開通、完成をみた。

その時の人々の喜び、感動する姿が臉に浮かぶ。

この取材を前に、文豪菊池寛（一八八八―一九四八）の短編小説『恩讐の彼方に』を思い出し再読した。これは、主人公が二十一年の歳月をかけ、大分県の耶馬溪にあった交通の難所に、ノミを振るってほぼ独力で「樋田の剝抜（青の洞門）」を開削したという話で、実在の僧禅海の逸話を基に書かれている。小説とは別に大正時代の『尋常小学国語読本』にも教材として掲載されているようであるが、私は、子どもの頃、絵本で読んだように思う。かつてドラマ化もされたが、是非、もう一度ドラマ化してもらいたい。その時の主役は、風貌からして火野正平さんが似合うのではないだろうか。

須川のトンネルは、須川の集落から約一kmの道程。トンネルを抜けると、目に鮮やかな緑に映える山々があり、心地よい涼風が吹き抜けた。野間の人々の「ほっこり」とさせる人情と恵まれた自然を満喫できたひと時だった。

帰りには野間亭のこだわりの「手打ちそば」でもいただくか。

文 嶋田 忠司

小学生お魚料理教室が開催されました。

市では地元水産物の消費拡大と魚食普及を目的として、市内小学校の5年生を対象に「小学生お魚料理教室」を開催しています。この教室は平成19年度から開催され、今年で12年目。今年は5月29日の峰山小学校を皮切りに、7月18日までの間14校293名の児童が京都府漁業協同組合の地元婦人部の方々の手ほどきを受け、丹後の旬の魚トビウオ（アゴ）を三枚におろしたり、ミンチにしたりしてハンバーグやつみれ汁を作りました。

「魚が嫌いだったが料理教室を通じて少し好きになった」「三枚にするのが難しかったが上手に出来たら嬉しかった」「家でもさばいて作ってみたい」などの感想がありました。調理後はみんなで昼食をとり、自分たちで捌いた魚料理に舌鼓を打っていました。



農業委員会活動をPRしました!!

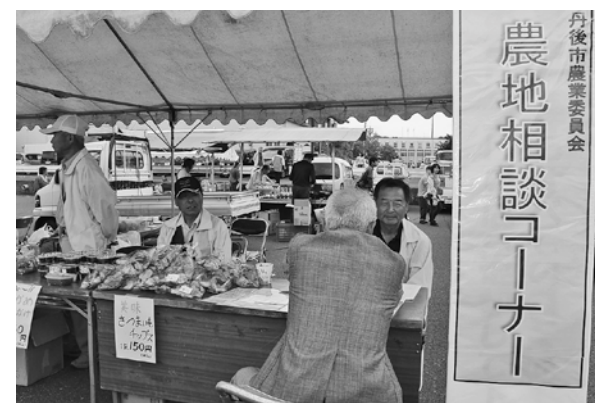


農業委員会では、例年食のみやこで行っているPR活動を今年は「農福連携」を推進するため、6月10日の「桃山の里ふれあいフェスタ 2018（主催：桃山の里ふれあいフェスタ実行委員会）」に於いて実施しました。

当日は農業委員会ブースに「農地相談コーナー」や「農業者年金の加入促進コーナー」を設置し、「高齢により作物の作付けや農地の管理が困難になり、数年先はどうすれば良いか」など切実な相談がありました。また、農業委員が栽培した農産物やポップコーンの販売も行ないました。

桃山の里ふれあいフェスタは今年で11回目、網野体育センター裏の多目的広場を会場に桃山の里家族会をはじめ、民生委員、峰山・網野・暁星高校の生徒を主に多くのボランティアが参加して、障害者福祉への理解の輪をひろげるとともに、市民と障害のある人たち、障害者関係団体やボランティアとの交流を深める場とし、ふれあい・楽しむことを目的に、障害者も健常者も分隔たりなく「仲間」となって、「つながろう笑顔 集まれパワー ～夢ある未来へ桃山の里から～」をスローガンに開催されました。

会場内は、たくさんの出店や来場者によって活気に溢れ、農業委員が主力となって掲げた20臼の搗きたての餅の販売やステージでは仲間による元気いっぱいのおよそ踊り、網野高校吹奏楽部による演奏や加悦谷高校合唱部によるアカペラマイクパフォーマンス、軽快なHIPHOPダンスなどが披露され盛り上がりを見せました。最後はUSJペア入場券や農業委員が提供したお米10kgなど豪華景品が当たる抽選会が行なわれ、当選者は満面の笑顔を見せていました。



農地に係る相談を受けました。



大盛況だった農産物やポップコーンの販売

郷土料理

わかめと鰯の
南蛮漬け

白身魚と
めかぶの冷汁

穴子と神葉の佃煮

白身魚の昆布締め風

旅館 海遊

代表取締役 西村大輔さん
(網野町三津)



【取材】澤 幸信 委員

今回の料理はあっさりとしたお酒にも合う料理を紹介したいと思い、旅館「海遊」の西村さんに料理をしていただきました。

紹介する料理は魚と海藻がメインとなって、丹後で採れた食材を使用しています。また、丹後で精製した藻塩で頂くと磯の香りが口の中に広がり美味しくいただきました。

丹後で精製した藻塩

白身魚の昆布締め風
白身魚のお刺身
めかぶ粉

穴子と神葉の佃煮
穴子の白焼き
神葉
実山椒
ちりめんじゃこ

・穴子骨だし… 1カップ
・砂糖 …… 大さじ2
・醤油 …… 大さじ2
・みりん …… 少々

白身魚とめかぶの冷汁
白身魚の塩焼き
めかぶ
ミョウガ、きゅうり、大葉、ゴマ、みそ
出汁

白ご飯にかけたり
ソーメンにもあいます。

わかめと鰯の南蛮漬け
鰯
わかめ
野菜

・酢 …… 1/2カップ
・砂糖 …… 大さじ2
・醤油 …… 大さじ1
・出汁 …… 1/4カップ
・塩 …… 少々

農業者年金に加入しましょう

- ① 農業従事者なら広く加入できます
(60歳未満、国民年金1号被保険者、60日以上従事)
- ② 保険料は自分で選べ、いつでも見直しできます
(月2万円～6万7千円の間で千円単位)
- ③ 税制面で大きな優遇措置があります
(保険料は全額社会保険料控除の対象になります)
- ④ 積立方式、⑤ 終身年金、⑥ 保険料の国庫補助(要件有)

私も入ってます。



なかむら
中村

こうすけ
浩典さん(峰山町鱒留)